

市議会モニターとの意見交換会報告書

下記のとおり報告します。

令和2年10月8日

報告者：広報広聴特別委員会委員長 田中陽三

開催日時	令和2年10月6日（火）10時00分～11時55分
場 所	光市議会本会議場及び第1・第2委員会室
出席議員	西村憲治、土橋啓義、森戸芳史、萬谷竹彦、大田敏司、河村龍男、磯部登志恵、森重明美、木村信秀、田中陽三、林節子、中本和行、笹井琢、畠堀計之、岸本隆雄、田邊学、仲山哲男
議 会 モニター	阿川民生、河野俊雄、來戸歳文、古賀和人、竹田裕、田沼一彦、轟紀子、中村逸也、深來登 (欠席：阿部憲次、岡村優輝、紙矢健治、瀬頭加代子、徳浪善文、松本奈津美、山根成紀)
事務局員	蔵下敏幸、芳岡統、大濱貴之、松尾真、起本一生
傍 聴 者	日刊新周南、瀬戸内タイムス
内 容	別紙次第、資料を参考

本会議場司会 田中広報広聴特別委員会委員長 開会

1 開会あいさつ

西村議長あいさつ

2 意見交換会の流れの説明

田中広報広聴特別委員会委員長

3 意見交換会

A班司会 笹井議員 B班司会 中本議員

2つの班に分かれて意見交換（30分ごとに議員が交代し、全議員と意見交換）

	議 員	議会モニター
A班	西村、磯部、木村、森戸、笹井、田中、岸本、田邊	阿川、來戸、中村、深來、轟
B班	土橋、中本、河村、森重、林、大田、畠堀、萬谷、仲山	河野、古賀、田沼、竹田

◎意見交換会で議会モニターから出た主な意見・要望等

【A班】

- ・本会議の進め方が形式ばっているように感じる。
- ・一般質問で、前の議員と被った質問がある。事業の進捗状況等も詳しく知りたいので、前の議員と繋がるように、質問してほしい。

- ・ 執行部の回答に対する再質問や反論が少ないので、本音のやりとりに思えない。
- ・ 新型コロナウイルスによる、学校での授業や経済的損失への対策にあまり力が入っていないように思う。
- ・ デマンド交通やバリアフリーなど、英語が多く使われ、意味が分からないことがある。
- ・ 委員会で職員の議案説明が詳しすぎて、くどい感じがする。
- ・ よく質問する議員とそうでない議員がいるが、質問しない議員は疑問を感じているのかどうなのかわからない。
- ・ 会派の代表質問をやったらどうだろうか。
- ・ 本会議で質問がかぶらないよう、案件ごとに整理して、共有できるようにしてはどうか。
- ・ 議会と執行部のキャッチボールが不足しているように思う。市民の声をどう拾い上げるかが基本になるので、議会報告会は必要だと思う。
- ・ このような意見交換会は消化試合で、ガス抜きのように感じる。

【B班】

- ・ 議会の内容をSNSで発信してもらえるといい。
- ・ 開かれた議会ということだが、本当に市民は知ることができているのか。
- ・ 選挙の時リーフレットを参考にするが、内容と現実がずれているように思う。
- ・ 議会だよりをお金の問題等では出せなかったことが残念。
- ・ 議会報告会も、議会だよりである程度報告しておけば、市民との意見交換の時間がもっと取れると思う。
- ・ 議会だよりはまず作って、発行するごとに少しずつ、良くなっていくと思う。
- ・ 本会議だけでなく、委員会も市民が見られるよう中継してもらいたい。
- ・ 意見交換会は30分では難しいと思う。
- ・ 議会報についても時間だけかかり、結局発行されなかった。分かりやすく、開かれた議会に変えていかなければならないと思う。市民に近い議会をお願いしたい。
- ・ 会派で政策立案、合意形成し、提言するのが議会運営の基本だと思うが、実際にそうなっているのか。
- ・ 市主催の光駅のバリアフリー化等のワークショップに参加し、行政と市民との関わりがとてもよかったと思う。
- ・ 開かれた議会ということで、市民に伝える際に見える化、市民の声を聞く等を大切にしてほしい。
- ・ 弓道場の陳情について、その場では門前払いで、その後、県の方へ誘導されたのか。
- ・ 市の総合計画等は何年かおきに出されているが、内容がほとんど変わっていない。議員がこれについて議論や評価をしないのはなぜなのか。
- ・ 市議会議員としての目標設定をすることをお願いしたい。
- ・ 市長や執行部に、前回こういう回答だったが、今現在どうなのかという質問が全くない。どのような経過になっているか追及してほしい。

- ・選挙の時、議員一人ひとりの意見が書かれたものがあれば分かりやすいと思う。光市をどのように変えて行けばいいのか聞きたい。

4 各班代表モニターの発表

【A班モニター代表 深來登さん】

光市の未来について、どうあるべきか提言したい。20年後の光市は人口3万人台、高齢化率約40%、14歳以下の年少人口約10%と予測されており、暮らしの安全・安心や利便性の低下、人手不足や財政負担の増大等、市政が重要な局面を迎えるものと予測されます。光市の特徴はデータで示すと、介護認定率は14.7%と県内で最も低く、健康寿命も長く、持ち家比率も県内トップ、母乳育児率も約70%で全国平均30%の倍、水道水は世界的に有名な日本酒「獺祭」も使うほどの美味しい水です。さらに山口大学附属小・中学校も立地し、県内随一の2学期制、市内小・中学校のコミュニティスクールの取組みは全国から視察が来るほど注目されています。地価も安く、温暖で晴れの日が多く、犯罪も少なく、戸建てでゆっくり過ごせ、健康になれる子育て支援の充実した、教育力の高いまちです。目指すべき方向性は、子育て支援や住環境が充実した、文教住宅都市だと確信しています。自然を味わいながら、豊かな生活が過ごせることを期待しています。

【B班モニター代表 田沼一彦さん】

光市議会に未来はあるのか考えてほしい。私は足元から自治を脅かす議会の危機を感じています。議会が「住民代表機関」として機能するためには、実質的に議員を選ぶ機会を住民に提供する必要があります。議員構成を見ると、若者や女性の割合が低く、職業分布にも偏りがあります。議員の不祥事等をきっかけに、議会に対する住民の不信感が募り、信頼が失われると、議会が役割を十分に果たせなくなる。また、議会改革の意欲が住民に届いていないように思う。市民が議会の存在意義を評価するのは、議会の活動により政策が変化し、課題が解決されたと実感できたときです。議会報告会を通じて、政策決定過程などを知らせることも、理解を得る取組みとして評価できる。「議会サポーター」のように、小グループと継続的に政策を議論する場を作る試みも、有益です。それから、低投票率や議員のなり手不足の原因は、選挙制度にもあると思う。女性や若い世代の議員を増やすには、被選挙権年齢の引き下げ、選挙運動の自由化、立候補制限の緩和も検討すべきと思う。最後に、地方議会に志を抱く人材を呼び込むためには、議員をやりがいのある魅力的な職業にしなければならない。チェック機能だけでなく、ポジティブな政策を活かせるような体制の整備や、議員報酬についても議論を深め、住民の理解を得る努力も必要だと思う。

5 議会代表の発表

【A班代表 森戸議会運営委員会委員長】

4点ほど感想を述べます。1点目は、今日のような機会がもっとあればいいと思いました。2点目は、モニターだけでなく、顧問的な役割のサポーター制度が必要だと感じました。3点目として、単に聞くのではなく、議会として聴く、傾聴する必要性を思いました。また、報告の方法の多様化から今回、動画配信を始めましたが、議会報の必要性も痛感しました。最後に、今回、古参の議員がやめますが、将来を見通す力が必要で、「故きを温ね、新しきを

知る」ということもあり、新たなメンバーで知恵を出し合いたいと思います。

【B班代表 萬谷議会改革推進特別委員会委員長】

今回、開かれた議会に対する温度差を感じました。また、知る権利についても考えさせられました。どんなスポーツでも基本が大切ですが、実際の試合の時は臨機応変に対応する必要があり、議会も一緒だと思います。議会改革推進特別委員会では議会モニターの皆さんのおかげで、スムーズに進行できたことに感謝します。

6 閉会あいさつ

土橋副議長あいさつ

本会議場司会 田中広報広聴特別委員会委員長 閉会